

令和元年度中野市子ども子育て会議、会議録

日 時 令和元年12月23日(月) 午後6時30分～午後8時30分
場 所 市民会館41号会議室
出席者 (委員)19名

須田美帆、荻原芹香、波木井 恵、勝山葉月、湯本美奈子、伊藤勇、大西清美、竹内由紀、吉原恵美子、小山むつ子、井出英樹、桑山洋子、高野次郎、仁科智栄子、小橋矢寿子、高野美紗、阿部晃子、山崎みなみ、川口知恵

欠席：松矢美知、田端英樹、杉浦宏子、山上裕起子、江森秀穂、渡邊泰子(順不同 敬称略)

(事務局)8名

子ども部長、子育て課長兼子ども相談室長、保育課長
子育て課長補佐、保育課長補佐、子ども相談室長補佐
青少年未来係長、子ども支援係

1 開 会

(子育て課長)

中野市子ども・子育て会議条例第5条の規定により、委員の過半数の方が出席されていますので、本日の会議は成立します。

最初に子ども部長より挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

(子ども部長)

委員の皆様には、一日のお仕事のお疲れの後、ご出席いただきましてありがとうございます。

前回の会議では、ニーズ調査それからその結果等、第1期事業計画の施策等の状況について説明させていただきました。

ご意見をいただきまして、それらを踏まえて、今回第2期の事業計画の骨子案ということになります。作成いたしましたので、どうかより良い計画となるようご意見をいただければと思っています。

3 協議事項

(子育て課長)

山上会長ですが、民生委員の改選に伴い、辞任となりましたので、本日の会議の議長は、中野市子ども子育て会議条例第4条及び第5条の規定により、小山副会長にお願いしたいと思います。

《小山副会長が進行》

- (1) 子ども・子育て環境の整備の点検・評価(第1期)について
(副会長) それでは、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料に基づき子育て課長補佐説明

(副会長) 子ども・子育て環境の整備の点検・評価(第1期)について、ご意見・ご質問等ありますか。

(委員)

わかりやすくまとめてもらい、これから中野市がどうなるか楽しみにになりました。何点かお伺いしたいのですが、課題にある待機児童は何人でしょうか。

(保育課長)

平成31年4月1日現在で、33名の待機児童が出てしまいました。

市といたしまして待機児童を解消したいということで、正規保育士の採用、嘱託・臨時保育士の採用を計画し、確保に努めてきました。

それプラス、3歳未満児の保育を対象とした定員6～19名の小規模保育施設の公募をさせていただいて、来年度2施設開設する予定です。

こちらの方は、市で入園の受付、入園手続きを行いまして、只今調整している最中です。

基本的には、4月1日現在では待機児童が出ない見込みで進めているところですが、現段階では申し上げられない状況です。

(委員)

市の方で、来年1月から保育士の採用試験をするということで、市が保育士の確保に力を注いでいることは理解できました。

中野市で働くと、メリットがあるということを是非全面に出してもらい、保育士の確保にがんばってもらいたいと思います。

また、保育士不足とありますが、4月1日に開所する小規模保育施設の保育士は、きちんと確保できている状況なのでしょうか。市はそれを把握していますか。

(保育課長)

現状、市の方では把握していませんが、保育士を募集していることは承知しています。今後、2～3月にかけて、市の方で認可を行っていきますので、その辺で最終確認をしたいと考えています。

(委員)

待機児童の定義を教えてください。

例えば前年に申し込みを開始した時点で申し込みをしたが、次の年に入園できなかった人は待機児童になるのか、年度途中で引越等で中野市に来たけど申し込みは終わっていて入れなかった人は待機児童になるのでしょうか。

(保育課長)

入所の申し込みをいただき、入所希望日に達した時点で入れない方が待機児童になります。

なお、潜在的待機児童といまして、例えば特定の保育園じゃないと入りたくないとか、あるいは育休が取れたので辞退するとか、そういった方々については、待機児

童には含まれません。

(委員)

各家庭で保育を必要とする理由は様々だと思います。

潜在的待機児童もたくさんいると思います。ただでさえ保育士不足は心苦しいが、潜在的待機児童も入れるようにという希望があります。

他に意見等なし

(2) 第2期中野市子ども・子育て支援事業計画(案)について

(副会長) それでは、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 子育て課長補佐説明

(副会長) 第2期中野市子ども・子育て支援事業計画(案)について、ご意見・ご質問等ありますか。

(子育て課長補佐)

第2期の基本理念は、第1期の言葉「子どもたちが健やかに生まれ、安心して子育て・子育てできる」をそのまま使っていくという形でよろしいでしょうか。

(委員)

第1期はこのまま終わってしまうので良いと思うが、第2期は第1期の言葉をそのまま使うのはどうなのかなと思います。

「子どもたちが健やかに生まれ」と私も思うが、健やかに生まれなかったお子さんもいると思います。健やかという言葉は、体が丈夫で健康ということになると思いますが、そういうふうに生まれるようにということをスローガンにしていると、そうではなかった子どもたちはどうなるのかという思いになってしまうので、やはり「子どもたちの命を支え」とか、「子どもたちの安全を保障し」とか、そういったいろいろなリスクや障がいを支えてきた子どももみんなそれぞれが幸せに安心して子育て・子育てができるような中野市にしていっての方が良いと思います。

(子育て課長補佐)

そうすると、後ろの「安心して子育て・子育てできる」という言葉はそのままで、その前の言葉を変えた方が良いということではよろしいでしょうか。

変えるにあたり、何か良い言葉があればと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

個人的には、今申し上げたように「子どもの命を支え」とか、「子どもの安全を保障し」とか、そういった内容が含まれるような文言をそちらで先導して考えて、別の言葉にしてもらえれば良いと思います。

ここで、文言を出すというのは難しいと思います。

(子育て課長補佐)

それでは、今ご意見いただきましたので、こちらで案をいくつか考えまして、決ま

ったところで、皆さんにご通知なりを差し上げ、アンケート形式にさせてもらって、一番多いものを採用するような形をとらせてもらうことでよろしいでしょうか。

(副会長)

皆さんよろしいでしょうか。

事務局から意見があったような形でお願ひできますでしょうか。

(子育て課長補佐)

はい、ありがとうございます。

そうしましたら、年明けになると思いますが言葉を考えまして、皆さんのところにご通知を差し上げます。

電話かFAXなどでご返答いただきたいという形になるかと思いますが、それで一番多いものを採用させてもらう形にしたいと思います。

(副会長)

先ほど、第2期中野市子ども・子育て支援事業計画(案)について説明がありましたが、全般通してご意見・ご質問等ありますか。

(委員)

ピンポイントでというわけではないが、私たちの中で、他の行政の方と会話をしたときに、「中野市の子育てって何がいいの？」と漠然と言われた時に、私だったら「今は保育園に入れたい人が多いのであんまり良くないよ」って言いたくなってしまう状況に至っています。

このような事業計画を出してもらったが、これを考えてくれた行政の方が、他の行政に住んでいる人たちに、「中野市に住むメリットはありますか」と聞かれた時に、なんて答えるのでしょうか。

皆さん、小さいお子さんもいるかもしれないし、子育て世代真っ最中ではないかもしれないが、私たちの身になって考えた時に、「中野市ってこうだから是非住んでほしい」と言えるのかをお聞きしたいです。

(子ども部長)

待機児童も出ているということで、厳しい意見をいただきました。

中野市に住むメリットということですが、確かに現在待機児童は出ていますが、来年度は、少なくとも4月については待機児童が出ないよう努力しているところであります。

それと、特定の何か一つの事業だけが出ているというのではなく、子育てはそれぞれの年代ごとによって継続的な支援が続いていくのが一番いいと思っています。

子育て支援センターも各地区にあって、他に引けを取らないような子育て支援はしているつもりです。

(委員)

マリア幼稚園は、学園としては県内に9園あります。

その中で、認定こども園の一人加配(障がい児)の支援に対して、補助金を出して

いるのは中野市だけです。

発育・発達相談も、保健師さんや教育委員会の方などが、年に何回も園に回ってきて、心配なお子さんを見てくれています。

子育てのための個別相談もしていますが、お母さんが子育てに悩んでいる時も、お願いすれば、快く専門の方が来てくれて個別相談にもものってくれます。

幼保小の連携についても、小学校の先生が園に見に来てくれたり、心配なお子さんを教育委員会の方が小学校へ保護者と一緒に連れていって、こんな状況で小学校へ上がりますよという説明をしてくれています。

私としては、他の市町村の話聞くにつけても、中野市はすごいなと思っています。

(子ども部長)

今言われた発育・発達相談については、事業とすれば高水福祉会さんへ委託をして、一緒に市も活動していますが、全国的にも珍しい取り組みかなと思います。

逆にこの北信地域は、高水福祉会さんがいるから出来ている取り組みなのかなというところで、加配の話も出ましたが、特別支援が必要な子というのは、保育現場では増えている状況だと聞いています。

これらのことは目に見えなかったり、一般的な形ではPRしにくいかもしれませんが、中野市としてはよくやっているほうかなと思っています。

(副会長)

委員は、全員の方に意見を求めているのですか。

(委員)

皆さんが共通の思いでやっているなら良いと思いますが、それぞれ縦割りなので、思っていることを共有していないと思います。

できればそれぞれの立場の方の意見を聞けば、こういう気持ちで考えているということがわかるので、時間が許せばお願いしたい。

(子育て課長・子ども相談室長)

私の部署の仕事の中で、まず一つ目が、発育・発達相談事業があります。これは小さい頃から学校に行くまでに困らないように、いろんな職員が一つのチームになって支援をしています。

他には、子育て支援センターが市内に3箇所ありますが、例えば今年については保育園が待機になってしまったお母さんが支援センターに来て悩みを相談し、支援員の職員は「お母さん元気出して」と励ましたりするなど、手厚く相談業務をしています。

本当に慰めかもしれませんが、そういうところに行くと、お母さんの心が休まるというような居場所づくりを心掛けています。

あと、放課後児童クラブも私の部署でやっています。学校の児童数は年々減っていますが、共働きの就業率が非常に高くなっていることもあって、人口は減っているが放課後児童クラブの利用率は増えている状態です。

そうはいつても、放課後児童クラブの待機児童だけは出さないように、努力をしています。

先ほど言ったとおり、見た目ではわからないかもしれませんが、それぞれの事業を丁寧にやらせていただくというのが私の考えです。

(保育課長)

保育課の関係になります。大変恐縮ですが、現状待機児童を出しています。

どうして出しているかという、0歳児、1歳児のお申込みが多いことと、加配といひまして、障がいをお持ちの方に対して、保育士を1対1とか、2対1とか、手厚く配置している関係もあり、保育士が不足してしまい、待機児童が出ている状況です。

入所後は、手厚く保育をさせてもらっていると考えています。

待機児童については、先ほどから申し上げていますが、4月1日現在には、待機児童を無くしていこうと現在取り組んでいます。

また、一時的保育、休日保育、延長保育の方も、お申込みいただければ対応させていただきます。状況が続いていますので、その辺については、利便性を保っていると考えています。

(委員)

確かにいろいろな事業をしているのはわかっていますが、保育園に入らなければ実感できない内容なのかなと思います。

統計のところにもありましたが、中野市は共働きの世帯が多いと書いてありました。子どもは減っているが、確実に入所する子どもは増えていくと思います。

みんなが保育園に入れる中野市、「子育てしやすいよね」って言えるくらいの施策になればいいのかなと思います。

(委員)

先ほどマリア幼稚園の先生が、「こんなに中野市はいいんだよ」って言うことで、「良かったな中野市にいて」という思いがあったので、先ほどの意見は、紙ベースとかにして、表に出せることはアピールしていただきたいと思います。

今の時代、低金利で会社の方も福利厚生が悪くなってきて、共働きではないと生きていけないので、やはりみんなが入れる保育園というのは、私たちはすごく望みます。

いろいろ努力されているかと思いますが、継続的にやってほしいです。

(委員)

只今の意見に少し触れて一言言わせてもらいたいのと、その後市の方へ質問があります。私も子育て世代で、子どもが高校生になりました。

私は妊娠したのが、結婚してから10数年後でしたので。同じ頃に結婚された方の子育てを見て、そして自分も子育てをして、今こちらの会議に参加しています。

私よりも早くお子さんが生まれた方々の時代は、妊婦健診もそれほどの補助もなかったし、りんごっこなどの子育て支援センターも開設されていませんでした。

その中で皆さん共働きをしたり、一生懸命時間をつくりながら子育てをがんばっているなど実感しました。

それで、今度は自分が妊娠して、子育てに入った時に妊婦健診の補助を少しもらったり、りんごっことかにもお世話になりました。

数年前から子ども・子育て会議に参加させてもらって、随分子育てする環境が整っ

てきているなど実感しています。

長い中で見ていると、本当に中野市は一生懸命、子育て世代をサポートする体制をつくられているなど実感しています。

あと一つ質問で、「PDCA サイクル」がありますが、前回この子育て会議に参加している方が第1期の計画を立てられた方であるが、第1期の計画を立てられた時、ものすごく苦勞をされてこちらの計画が立ち上がったと聞いた後、引き継ぎました。今回は第2期ということで、改善に入ってきているのかなと思っています。

第1期から第2期に移るにあたって、大きく改善するべき場所というのは、今までの話の中では聞き取れなかったが、第1期のまま特に問題もなく、このまま第2期に進んでいいのか、あるいは第1期の中でやはりここは改善した方がいいのかなという部分があればお聞きしたいです。

第1期の計画でやってみて、特に問題がなく、このまま継続でやっていきたいということであれば、そのように答えてもらって構いません。

(子育て課長)

子育て課の関係ですが、当然第1期の計画はやめるとかではなく、継続しなければならない事業が多数あります。

第2期については、さらに追加してできることはやりましょうという考えですので、例えば「子育て支援ショートステイ事業」、これは今年からやった事業です。

これについては、一時的保育というものがあるが、ショートステイというのは、本当に困っている方のために泊まりでお子さんを預けて、その間にお母さんたちに用事を済ませていただくという事業です。

ちょっとのことではあるが、少しずつ前進していきたいというのが、この計画の中に組み込まれているというような感じですか。

(保育課長)

保育課の関係ですが、制度改正というのが一つあります。この10月に幼児教育・保育の無償化が始まりました。これにつきましては、「子育て家庭への経済的支援」の中で、「3歳から5歳までの幼児教育・保育の利用料を無償化します」というようなことを加えてあります。

あと待機児童を今年度出してしまいましたので、この改善に向けて資料の方に載せてあります。

(委員)

そうすれば、第1期の子育て計画をさらに充実させる第2期計画を進めていきたいという考えでよいのでしょうか。

(保育課長)

はい。

(委員)

ありがとうございました。

(委員)

何点か質問させてください。

まず、ファミリー・サポート・センター事業の関係で、私自身がファミリー・サポート・センターの協力会員をしています。先日、協力会員向けの講習会を受けさせてもらい、その時初めて協力会員の方と話をしました。子育て支援センターの先生とかと話をした時に、子育て世代のお母さんたちのファミリー・サポート・センターの認知がすごく低いと感じました。「中野市に対して期待する子育て支援」を見ると、「ファミリー・サポート・センターを充実してほしい」という意見が出ています。小学生保護者からは75件の意見が出ている。やはりそういう方たちがいるということを受け取ってもらい、課題というか事業を推し進めるようやってもらいたいと思います。

そのために、子育て世代のお母さんたちと協力会員で話をしたりすることを、支援センターを借りてできないかと市の方に向けあったが、今年度は予算の関係で難しいと言われました。来年度に協力会員向けの研修を計画しているとの説明がありましたが、それが来年のいつになるかなと思っています。来年の4月、5月に実施してもらえるのかなと思っているお母さんたちはたくさんいると思うので、できるだけ早くそういう方たちの要望に応じてもらいたいと感じました。

それから「魅力ある学校教育の推進」の中の「安全の確保」というところに、「家庭、地域、学校、関係機関と連携し防犯・防災の連絡体制の充実を進めます」とありますが、私の子どもは今中野小学校に通っています。先日不審者が出たということで学校の方から連絡メールがきました。そのメールは、不審者が出たという日から1週間近く経ってからきたので、その対応が遅かったのではないかと感じていて、お母さんたちからもそういう声がたくさん聞かれています。実際には被害はないそうですが、小学生が追いかけられたそうで、このことを高校生の親御さんの方が早く知っていたというのがあって、なぜ早く小学校に連絡が来なかったのかなと疑問に感じました。そういう連携というのは、果たして充実しているのかなと感じています。

子ども食堂改め子どもカフェというものが、市内では6箇所で開催されていると思いますが、私も子どもカフェをよく利用しています。すべてのところを利用させてもらったが、利用してみて、それぞれカラーがみんな違う。運営されている方も違うし規模も違う。公民館でやられているところもあるし、デイサービスの業務が終わった後を活用しているところもある。公民館などはある程度広さがあるので、大人数のお子さんや親御さんが利用できますが、デイサービスとなってくると、小規模なので一つの家庭のリビングみたいなところなので、収容できる人数に限りがあります。

それで、我が家がいつも利用させてもらっているデイサービスのところは、10畳ぐらいのところに、6畳ぐらいの小上がりがあって、そこに10家族ぐらいいて、本当にいっぱい、夏なんかは熱気でむんむんしてしまって、子どもたちは汗だくでその中で飛び跳ねて遊んでいます。運営されている方も一人で料理をつくっていて、そこにお母さんたちが一緒になって料理をつくっている。すごくアットホームでここ好きだなとって利用される家族も多いです。

北信ローカルにも載っていましたが、子どもカフェを運営されている方たちの会議があったそうで、それを見ていたら、そのデイサービスでされている方は正直今の現状が精一杯で、先がちょっと見えないと言っています。本当はたくさんの人たちに利用してもらいたいが、やっている方も精一杯というところもあるので、利用者のためにも、そういうところを工夫してあげたらいいのかなと感じました。

それから、学校の給食についてですが、先日北部給食センターの1年生の親向けに視察があって、私はそれに応募して参加しましたが、中野小学校の1年生は約150人いるのに、5名のお母さんたちが参加し、給食に対する保護者の関心が低いなと感じました。もう少し給食に対する親御さんの関心も高めていけるような働きかけができればいいなと感じています。

北部給食センターでつくっている学校は、中野小学校のほかにもいくつかあるが、小規模の学校の子どもたちは、人数が少ないので給食センターに見学に行くことができます。中野小学校は児童数の関係で、給食センターに見学に行けないので、給食センターから栄養士の先生が学校に出向いて説明をしてくださるという食育の活動をされているそうです。給食センターから学校に話をするだけということと、実際に子どもたちがそこに行って、調理師さんがすごく大変な思いをして給食をつくっているのを目の当たりにするのは全然違うなと感じました。20人であれだけの量の給食をつくれるということは、すごい大変だなと感じました。もっと給食に対して、児童も親御さんも関心が持てればいいのではないか感じています。

それから、給食センターに関して先日北信ローカルで目にしたが、北部給食センターが来年度から南部給食センターと同様に委託になるというのを1面で拝見した。まだ決定事項ではないので、おそらく学校の方に通知していないと思いますが、新聞の1面に出ているのに、学校からはそれに関する説明等がないというのは、どうなのかと保護者として心配です。

現在南部給食センターで業務をされている業者さんは、他の業者さんにも変わるかもしれないということを聞いたが、そこも少し疑問に感じています。

それと、北部地区の小学校の統廃合がありますが、廃校になる小学校の利活用について、現在市で何かわかることがあれば教えてほしいです。

今回、第2期子ども・子育て支援事業計画（案）の冊子が、3、4日前に私たちに送られてきましたが、今回アンケートに協力してくれた子育て世帯の方たちに、この冊子がいつているのかなというか、調査世帯への対応の仕方について教えてほしいです。

(子育て課長)

最初に不審者のメールが、高校の方が早くて小学校の方が遅いという話がありましたが、この件は教育委員会に伝えさせていただきます。学校は、当然警察とも連携していますので、ライポくん安心メールのようなもので、やりとりをしているはずですが、詳しくわからないので、お伝えするという事しか言えません。

ファミリー・サポート・センターの関係ですが、交流会を早くやってほしいというご意見がありましたが、来年度研修を兼ねてやる予定です。時期についてはまだ決定していませんが、来年度早くやりたいと考えています。依頼会員数と提供会員数の差があまりにも大きくて、頼むに頼めないような状況も重々承知しています。またお願いしたいと登録はするけれども、やっぱり知らない方に見てもらうのはどうかという方も実際にいて、悩んでいる方もいらっしゃる。そうはいつても、これがうまくいけばもっと利用したい方もいるので、周知にもっと力を入れていきたいと思っています。

子どもカフェの関係ですが、広報なかの12月号でも特集させてもらいましたが、社協の方が中心となってやっていただいているものであります。実際に運営している方が、いっぱいいっぱいだということは、私たちのところにも声が届いています。県

や市、その他の団体が連携して、なるべくいろいろな方がいろいろな場所でやってもらうのがベストだと思いますので、また社協の方と連携しながらすすめていきたいと思っています。

学校給食の関係ですが、保護者の方にもっと給食の関心を深めるようなことをしてもらいたいということ、食育の活動のこと、給食センターの委託の関係については、教育委員会の方に伝えさせていただくということでお願いします。

小学校の利活用については、市の政策情報課でやっています。サウンディング型方式とって、この学校はどんなことに活用したらいいですかというようなこともやっています。市民の方からもご意見を頂戴して、現在まとめている最中だと思いますので、また何らかの方法で皆さんにお知らせする時期が来るかと思っていますので、よろしくをお願いします。

資料の冊子についてですが、これについては子ども・子育て会議で概要を決めていただいて、この後パブリックコメントとって市民の方にこれを見ていただいて、広くご意見を頂戴して、最終的に計画を決定するような形になっています。1冊1冊を市民の皆さんに配るのではなく、ホームページ等に掲載していきたいと考えています。

(委員)

ファミリー・サポート・センターの関係で、依頼会員と協力会員に差があるということで、やはりこの制度を知らない人はいると思いますので、そういうところの溝を無くすためにも、例えば依頼会員と協力会員の交流の場があればいいのではという意見があって、そういうことが気軽にできれば良いのではないかと、実際にそういうことを近隣の市町村では行っているそうなので、是非、中野市でも取り入れていってもらえたらなと思います。

(子育て課長)

これについては、是非やっていきたいと思っています。

(委員)

アンケートの結果の中で、「残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしい」の項目が、就学前児童保護者と小学生保護者ともに第2位になっているが、中野市で実際にどのような働きかけをしていく方針なのか、決まっていることがあれば教えてほしいです。

先ほどの意見にもあったが、私も平岡小学校に通っている子どもがいて、うちの小学校は不審者が出たという日から、3、4日後に連絡がきた。地域連携という中で、市として、ただメールの報告だけではなく、実際に安全を確保できるかどうか、警察、学校、市として安全確保を確認してメールを発信する等の配慮をしてもらえるとうれしいなと思います。

あともう1点、放課後児童クラブについてですが、「放課後児童クラブの役割をさらに向上させていくための方策」の中に、「支援員の研修を充実させ」という言葉を掲げてありますが、保育に携わってこなかった方々が、小学校1・2年生に言わなくてもいいようなことを言ってしまって、傷ついてしまっている子どもたちがいたり、そういうことが実際にあって、ある程度理解のできる中学年以上になってくると、児童クラブにいきたくなくなる子どもたちがいると聞いています。是非そのあたりの指

導・研修、また一つのクラブの中で、保育の経験のある方を中心に運営してもらえるような配慮をしてもらえるとありがたいなと感じています。

(子ども部長)

「残業時間の短縮や職場環境の改善を働きかけてほしい」という意見をいただいた方は、特定の会社にというような思いもあって書かれたかもしれませんが、直接というわけにはいかないの、全体的な働き方改革という形で、国も音頭をとってやっていますが、市もこういう取り組みをしていますというものを、広報等で周知したり、当面は日本全体的でそういう機運を高めていく形の中で、何か目につくような形をとって、どんどん周知をしていくしか今のところは仕方がないのかなと思います。

(子育て課長)

メールの件については、警察・市・学校いろいろなところで連携をしていますが、地域の方やPTAの方にも協力してもらい、「中野市全体で子どもたちの安全を守っていこう」となってくるのがベストだと思います。できればそれぞれのお立場でやることはやっていくということをお願いしたいと思います。メールの件は先ほどと一緒に、教育委員会に伝えさせていただきます。

放課後児童クラブについてですが、支援員は幼稚園・保育園の先生の資格がなくても違う資格の方がなれるといういろいろな条件があります。運営について、私たちも知らないことがありますので、参考にさせていただきます。

(委員)

拝見させてもらって、細々したところまで手をかけていることがわかり、ありがたいことだと思っています。

特別な援助を要する家庭の支援という中で、加配に関しては、残念ながら私立幼稚園に関しては枠の外に置かれてしまっていて、ご協力が得られていない状況で、それを承知の上で私立を選んでいるのでしようということになってしまうと、問題も出てくるのかなという中で、中野市のすべてのお子さんたちに対して、そういったことを支援してもらえるような方向を、是非考えてもらえるとありがたいと思っています。

それと、全体的なことになりますが、うちの園も小さな園です。やはり教師の採用が大変困難になっています。社会的ニーズから考えれば、お子さんをたくさん預かってほしいということは当然承知していますが、定員数を見てもらうと、莫大なお子さんをお預かりできる施設は確保されているはずなのに、これだけの待機児童が出なければいけないのかというのは、施設の問題ではないということになります。

すべてのところで職員の確保が困難を極めている状況の中で、人手不足ということに、果たして中野市は待機児童を解消する方法としてどこまでやるのか、今後無限に保育ニーズに対応していくのか。おそらく採用規模の大きなところは体力があり、あちらより良い条件ですという形の中で先生たちを集めるということは可能なんですけれども、それ以外のところはおそらくこれからは採用自体が難しいという施設が出てくると思います。

ある一定の施設以外では、お子さんはお預かりすることは難しくなることが出てくるのかなと、どうしてほしいということではなく、だからこそ今後公立と私立の全体

的なバランスをお考えいただく中で方向性をこれからつくってほしいと思っています。

つい最近新聞で拝見しましたが、全国で1、2歳の保育に関しては7万人も足りないという調査が出ていました。こういった社会の中、7万人の子どもたちを受け入れるだけの人間が、保育士としてどこから出てくるのかということ、施設を運営する人間からすると、想像ができない状況になっている中で、果たしてどこまで保育ニーズに対応できるのかということについて、是非連携して進めさせていただければありがたいと思っています。

(保育課長)

貴重なご意見ありがとうございます。

まず、特別保育に対する加配の補助の話ですが、私立幼稚園については、現行市の方では対応していないことは重々承知していますが、補助しないということではなくて、今後どういう補助ができるかということも含めながら、検討していかなければならないのかなと感じました。

今すぐここでというわけにはいかなないので、ご意見を持ち帰り検討したいと考えています。

それから、定員の関係ですが、中央幼稚園の先生方の採用が厳しいと、公立も同様であり、短大の方へ是非受験してもらいたいということをお願いに行くのですが、どこの市町村もやはり公立の保育所を受験する率が少なくなっているという意見をいただきました。

そんな中で私どもも魅力ある保育士の待遇など、そういった部分も含めながら対応していかなければならないと考えています。

定数の話に戻りますが、定員は充分あるのですが、お話のとおり保育士の不足、人手が足りないということからお子さんを預かれないという状況が続いています。

中野市でも、大・中・小と規模的にはいろいろあり、例えば、永田保育園や長丘保育園は、20～30人規模です。

適正配置、適正な園児数など、そういった部分もまたこれから考えていかなければいけないと思っています。

市としては、今後公立保育所のあり方検討会を組織して検討を始めようとしていますが、そういったところで私立の保育園や幼稚園、認定こども園などのご意見をいただきながら、進めていければと考えていますので、その節にはご協力、ご指導いただければと考えています。

(委員)

今すぐにどうにかしてくれということでないが、そういったことが今後私どもも含めて、施設に関しては連携という配慮をお願いする中で、考えていただければと思います。保護者の皆さん方のお力添えになればと思っていますので、伝えさせていただきました。

(委員)

質問というか要望で、私の住んでいる町の公民館は老朽化していて、他の区と今度統合するという話があって、今の公民館を無くすという話が出ているそうです。

それに伴って神社のところに遊具があって、その遊具は何十年となる遊具で老朽化して、その遊具も一緒に無くすという話が出ています。その遊具は区の持ち物であって、市の管轄ではないそうです。

その神社は保育園や幼稚園の子どもたちが遊びに来るところでもあるので、公民館を無くすことによって遊具も無くなってしまうというのは、そこはやはり市で整備の方法について考えてもらいたいなと感じています。

アンケートのところでも「親子でも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」という要望が出ているので、公園整備に関しては都市計画課になると思うが連携してもらい、是非そこのところの整備、改善をしてもらいたいです。

(子育て課長)

公園の話については、やはり公園が欲しいという話がありますが、市で管理しているのは一本木公園や北公園などの大きな都市公園です。各区の神社にある遊具については、区の方で安全管理をやっていただいているのですが、修理をする場合、補助金もありますので、是非区の方に言っていただけて市へ申請をあげていただくということで、多少なりとも直せるというのはあると思います。

(委員)

区の方でも正直予算がないそうなので、できるだけ市の方で整備してもらいたいです。

(委員)

先ほどの給食センターの件で、給食についての話がありましたが、それぞれの学校でいろいろな課題があるなと聞いていて思いました。いろいろ学校の情報をPTAの方たちで共有することも大事だなと思いました。

ある学校では、1年生の親子レクでお母さんたちと一緒に給食を食べて栄養士さんからお話を聞いて、家での食事や食育についての指導を親子で受けたとか、給食センターにPTAの教養部の方たちで行って、PTA新聞でそのことを伝えとか、市からのご指導も大事かなと思いますが、PTAの方たちが何かそういう取り組みなど、活発にしていくと少し趣が出てくるのかなと思えます。

大きな学校だと大変だと思いますが、私以前勤めていた学校は大きな学校で各学年3～4クラスとかありましたが、日にちをかえてクラスごとに試食会をやったり、そういうことも可能かなと思うので、またいろいろなところで取り組んでいくことが大事だなと思いました。

(委員)

給食に関して、今年は南部給食センターが、来年は北部給食センターが委託されるという話がありました。

先ほど保育課長さんから、今後保育園のあり方に対して検討会をされていくという話があったが、その話を聞いて思ったのが、いずれ長丘保育園や永田保育園などの小規模保育園は閉園となっていくのかなという不安があると同時に、保育園の調理員さんも委託されていくのではないかという不安を感じました。

そのことに関して、少し決まっていることとか、方針などがあったら教えてほしい

です。

(保育課長)

保育園の統廃合の話ですが、現段階では全く白紙です。

適正規模や配置はどうなのか、現状の園児の数、そういったもろもろのデータを含めて、検討会で委員の皆さんのご意見を頂戴して、そこから進めていきたいと思っていますので、どこが統廃合するとかということを申し上げる段階ではありません。

それから給食の調理の委託に関してですが、未満児については、自園調理というのが原則となっていますので、現段階では委託するという考えはありません。

(委員)

私自身も初めての子どもが今年年少に上がり、年少に上がったら、子育てに対する不安や何かあったら幼稚園の先生に相談してみようと、相談できる窓口みたいなものが、自分の中に明確に見えて、すごい子育てがしやすくなって、不安が取り除かれました。特別何かあったわけではないですが、いざとなったら心の支えができたな思っていて、妊娠から出産までの間は病院にかかったり、健診もあるのでいいが、生まれてから保育園や幼稚園に入るまでのこの期間、子育て世代包括支援センターができたことを知りませんでした。

どういうふうにお母さんたちとつながるのか、支援センターはお母さんが自分で行かなければ支援センターの先生や支援員の方たちとつながることはできないと思いますが、お母さんたちとどうやってつながっていくのかなと疑問に思いました。困ったことがあったら相談してみようかなとも思いました。

(子育て課長補佐)

子育て世代包括支援センターは、健康づくり課にあります。窓口で保健師や栄養士などの専門家が対応しています。相談窓口になりますので、来ていただくとか電話などで構いませんので連絡して下さい。そうすれば、保健師がご家庭に訪問したり、相談にのるなど対応いたします。

(子ども相談室長補佐)

補足です。来てもらわなければ使えないというものではなくて、生まれた段階からより前、母子手帳をもらうその段階から、既にフォローが入っています。

妊婦から生まれるところ、生まれてしばらくは健康づくり課の方で、もともとフォローしていましたが、あえて名称として子育て世代包括支援センターと名付けたものです。

子ども相談室については、妊婦から18歳まですべてのことに対応します。そのためにいろいろな機関と連携しており、子どもサポート連絡協議会というものもあります。もし不安なことがあれば、是非子ども相談室までお越しいただければ対応します。

(委員)

こんなに厚い冊子があるように、すごく支えられて子育てをしている。こういう会議に出て実感していますが、せっかくいいものがあるので、周知できたらいいなと思いました。

(委員)

今の意見に関連することで、私たちの職場は異動になった時に、どこに誰がいるという名簿を配ったりしますが、市も異動はあるとは思いますが。私たちは顔や名前も知らない人と話すわけで、子育て世代包括支援センターやファミリー・サポート・センターもそうだが、名簿を出してもらって、今こういう人たちがいるなら、この人に相談したいなというものがあるので、できればお名前を出してもらった方が、一歩扉が開くので、行政の職員で税金も使っていることなので、そこは一つお名前を出して、この人たちが相談にのっているとPRしてほしいと思います。

(子育て課長補佐)

今のご意見については、参考にさせていただきたいと思います。

他に意見等なし

(3) 小規模保育事業所の開設について

(副会長) それでは、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 保育課長説明

(副会長) 小規模保育事業所の開設について、ご意見・ご質問等ありますか。

(委員)

うちの幼稚園も0歳児は6人の定員がある。今年度は6人入っています。来年度は0歳児を預からないことにしました。公立の方は6ヵ月からお預かりすると思うが、それでも0歳児はすごく大変である。大変というのは保育ではなく養護の部分で、食べさせて、完全に寝かせて、過ごさせれば良いというものではありません。この大事な時期に愛着と安心の中で育てていかなければならない。そこに待機児童がいるからという気持ちはとてもよくわかりますが、うちは0歳児を申し込んでもらった保護者の方には、預けるところがないので、企業にもう少しお休みをもらえないかと頼んでくださいとお願いをしたので、来年度0歳児はいません。

株式会社が入ってくるというのは不安がありますので、中野市としてよく目を光らせてほしいです。大きな会社なので運営はできていくと思いますが、その子たちが本当に安心して子育てができる、そして健やかに育つ環境にあるのかということをよくみてもらいたいと思います。

(保育課長)

ありがとうございます。

株式会社ということで、少し不安があるという話ですが、この2施設の事業者につきましては、他市で実績があります。設置している他の自治体に聞いても、しっかりやっていると、お話を伺っています。

そんな中、ご承知のとおり、市の認可がありますし、年間通じて指導監査も入ります。そういったところでしっかり目を光らせて、しっかり指導し、

行き届いているかどうかについて確認をとり、しっかり運営していただけるように、正しくお子さんを見ていただけるようお願いしていきたい考えですので、ご理解をお願いします。

他に意見等なし

(4) その他

意見等なし

4 その他

(子育て課長補佐)

今後の日程ですが、この会議でのご意見を参考にさせていただいた中で事業計画をつくりたいと思います。

そしてそのつくった計画をパブリックコメントということで、市民の皆さんからご意見をいただく形になります。

パブリックコメントですが、1月下旬か2月の頭ぐらいから1ヵ月間を予定しています。そこでご意見をいただいたものを反映し、3月中旬になるかと思いますが、最終的な形にしたものをもう1回会議を開きまして、皆さんにお示ししてご了承いただき、この事業計画ということで出していきたいと考えています。

他に意見等なし

5 閉 会

(子育て課長)

それでは、以上を持ちまして、子ども子育て会議を閉じさせていただきます。